

人権さんだ

9月号

かつやく
高齢者が活躍する社会

《問い合わせ》
健康福祉部 人権共生推進課
TEL : 559-5148 FAX : 563-7776
E-mail : jinken_u@city.sanda.lg.jp

令和7年(2025)

No. 558



働くこともまた楽し

高齢化が一層進む中で、高齢者が社会の重要な一員として尊重され、就業をはじめ多様な活動に参加する機会が確保される社会をつくらなければならないことが重要です。

高齢者の中には、地域や社会に貢献すること、働くことや活動を通して社会や人々とつながり、生きがいや喜びを感じている人も多くいます。様々な知識や経験をいかして仕事をする人、新しいことに挑戦する人など、人それぞれ。

仕事の場面では、多様な個性をいかし、お互いが協調し、助け合いながら、自分らしく、無理せず、人生を謳歌しています。

また働くことだけではなく、仲間とともにクラブや趣味のサークルをはじめ、地域の中での様々な活動を楽しみ、支え合い、認め合うことに生きがいを見出す人もいます。

高齢者の皆さんが働き、活動する中で見せる、こぼれるような笑顔は、いきいきと輝き、充実した日々を送っていることを物語っています。

今号ではシルバー人材センターの会員で活躍している高齢者を紹介します。

UD FONT

見やすいユニバーサルデザイン
フォントを採用しています。

笑顔で期待に応えたい

(Kさん 72歳 フラワータウン地区)

人と関わることが大好きな私は、支援を必要とするご家庭で、訪問型の生活支援サービスを3件担当しています。身体介護以外の掃除や洗濯など身の回りのお世話をすることで、少しでも手助けになっていることに喜びを感じています。このほかにも自治会のコミュニティセンターでのボランティアや、配送センターで仕分け作業の仕事もしています。

報酬にはあまりこだわりはなく、どんな職場でも、どんな仕事でも自分を必要としてくれる方々の期待に応えようと思って笑顔で頑張っています。

そんな私はお酒が大好きで、長年、晩酌を続けましたが、健康診断で血圧が要精密検査となったこ



Kさん

とをきっかけに、きっぱり断酒し果実酢を飲むようになりました。これも毎日の楽しみのひとつです。

助けたり、助けられたり

(Tさん 66歳 三田地区)

一歳ごろから右腕全体に障害がある私は、亡き兄の口癖だった「何ごともあきらめるな」をモットーにしています。



Tさん

これまで駐輪場巡回、屋内清掃、青野ダム魚道管理を経て、現在は駅前の駐車場管理の業務に携わっています。

言語障害、精神障害、聴覚障害を持つ方々と共に働き、サポートをする反面、片腕ではできない仕事を助けてもらいました。まさに「共働・共助」を実践してきました。私はできないと思うことにも積

極的に取り組み、できないことを減らす努力をしています。どうしてもできないことは、できないと割り切って無理はしません。

また他の人より時間はかかりますが正確な仕事を心がけています。

聴覚障害がある妻とは字幕付きの映画を鑑賞したり、スマホの電子図書で読書を楽しんだり、また友人たちとのつながりも大切に楽しんでいます。

実は身体障害者のゴルフ大会に参加したこともあるんですよ。

楽しく集える場

(Hさん 83歳 高平地区)

大手家電メーカーに勤務した経験を生かして、音響機器の接続や



Hさん

パソコンの設定、操作の指導などの業務を行っています。仲間とコーラスグループを結成し、令和4年には発表会を開きました。練習の時から和気あいあい、笑顔と真剣さがまざりあった素敵な時間を過ごしています。

メンバーの減少と高齢化が悩みの種ですが仲間たちと楽しく集える場が一番大切だと思い奮闘しています。

素敵な仲間たちと一緒に

(Yさん 66歳 三田地区)

着付け教室で、目的意識や価値観に共感できる仲間たちと一緒に仕事ができることを気に入っています。手芸サークルでは着物を手提げ袋や財布、筆箱などの小物にリメイクして楽しんでいます。

着付け教室も手芸サークルも技能や知識を仲間同士で教えあつて切磋琢磨できるところがとっても素敵だと思っています。



Yさん

3
頁
上
段
へ

お知らせ
 シルバー人材センターでの就業に
 興味のある方は一度ご相談ください。

連絡先：
 公益社団法人三田市シルバー人材センター
 三田市あかしあ台 5-32-2
 Tel 079-564-7501
 Fax 079-553-1300



夫も仕事を通じて人間関係が
 広がり、以前よりも口数が増え、
 活発になりました。

誰もが生きやすい

「共生社会」の実現に向けて

総務省の労働力調査によると、65
 歳以上の就業者数は、上昇傾向にあ
 ります。高齢者はそれぞれのライフ
 スタイルを大切にして仕事選びをし
 ています。

今号で紹介した皆さんは、単に収
 入のためという理由だけではなく、
 多くの人が誰かの役に立つことを望
 んでいるように感じます。だからこ
 そ働く側も、依頼する側も、感謝を
 もって接することができ、安心感の
 ある社会へとつながるのでしよう。
 高齢者の就業意欲は高く、それに
 対して十分な選択肢が用意されてい
 る社会が望ましいです。

一方で、働かない人、働けない人
 も同様に尊重される社会であってほ
 しいものです。
 あらゆる高齢者の人権を認め合
 い、誰もが生きやすい社会を今以上
 に実現していきましょう。

人権さんだアンケート

ご感想や今後取り上げて
 ほしいテーマをお寄せく
 ださい。

いきがい応援プラザ～HOT～

高齢者支援課が運営する「いきがい応援プラザ～HOT～」では、
 シニアの皆さんの「やってみたい！」をサポートします。お気軽にご相談ください。

いきいきと輝くための3つのサポート内容

- ①「夢中になれることを見つけたい」「新しいことを始めたい」
 趣味の活動や地域活動など、社会参加ができる活動先を紹介します。
- ②「知識やスキルを活かしたい」「社会貢献したい」
 「いきがい応援バンク」に登録してください。
 あなたの知識やスキルを必要とする団体や市民とつながります。
- ③「まだまだ新しいことを学び、体験したい」
 シニアの方を対象としたセミナーを開催しています。広報誌やチラシで案内します。



いきがい応援プラザ～HOT～（三田市役所本庁舎4階）
 平日：9時～16時30分 Tel: 079-559-6800 Fax: 079-563-7776

<p>くらしの人権相談</p> <p>TEL 559-5062 FAX 559-5063 月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く）</p>
<p>専門相談員による性的マイノリティ特設電話相談（予約制）</p> <p>TEL 559-5062 FAX 559-5063 月曜～金曜 9時～17時（※祝日・年末年始を除く） ※専門相談員との相談日は予約後に調整</p>
<p>人権擁護委員による定例人権相談（予約制）</p> <p>TEL 559-5148 FAX 563-7776 《次回相談日》9月25日（木）13時～16時</p>

三田市人権施策基本方針の改定（令和7年7月改定）

（略称）人権共生条例

人権施策基本方針（様々な人権課題）

- ・部落差別 ・女性 ・外国人 ・障害のある人
- ・高齢者 ・子ども ・性的マイノリティ ・犯罪被害者等
- ・インターネットによる人権侵害（追加）
 ハラスメント 災害時の人権（追加） など

人権推進の方策を明らかにし、「人権尊重」
 を市のすべての施策に位置づけ、市民・事業者
 等と連携して、人権施策の総合的・横断的な
 推進に積極的に取り組むための基本方針です。



地域の方々とふれあいを通して

三田市立認定こども園

みつば幼稚園教職員 曾谷 芳恵さん

私が勤務している認定こども園みつば幼稚園は、広野、本庄、藍幼稚園を再編統合し、令和6年に開園しました。統合後も、サツマイモの栽培や老人クラブの方々との交流、個人宅の畑や森でのどんぐり拾いなど、地域の方々の力をお借りし、それぞれの地域に触れる機会を重ね、地域への愛着や感謝の気持ちを育んでいます。

その中で、「よく来たね!」「みんなに会えると元気をもらえるよ」と、やさしさ溢れる言葉をたくさんかけていただきます。初めは、どのように関わればよいか戸惑う様子を見せる子ども達も、地域の方々

と話をしたり、一緒に遊んだり、やさしく接してもらったりする中で、次第に関わりを喜び、楽しむ姿が見られるようになっていきました。

交流の後、子ども達が「一緒に遊んで嬉しかった!」「また会いたいな!」「『ありがとう』をどうやって伝えたらいいのかな?」等と話す姿から、地域の方々の温かさが子ども達の心を動かし、相手を思いやる気持ちが芽生え、人との関わりを喜ぶ姿へつながっていくのだと実感しています。子ども達がこれから出会うたくさんの人々と「また会いたいな」と思いをつないで欲しいと願っています。

出会いは奇跡

大学時代、ゼミの先生に誘っていただき、保育ボランティアや県内の幼稚園や保育園での親子体操のサポートを行っていました。その活動の中で、子ども達や園の先生方との関わりを喜ぶ私に、先生はいつも「君の取り柄は『太陽のようなその明るさだ』と話してくれ、とても嬉しく感じていました。

就職を控えた4回生の時、新しい環境へ飛び込むことや将来への不安で押しつぶされそうになったことがありました。そんな私を見かね、先生が自宅に招き、私の話を親身に聞いてくださいました。いつもは豪快にガハハと笑う先生が、ご自身のライフストーリーや人々との出会いの話を通して、「当たり前は当たり前じゃない、すべては奇跡」と伝えてくださいました。私にとっ

てこの言葉は、「人との出会いは奇跡」というメッセージとして、今でも人とのつながりを大切にしていきたいと願う私の心の軸になっています。

「つながり」の温かさを感じて

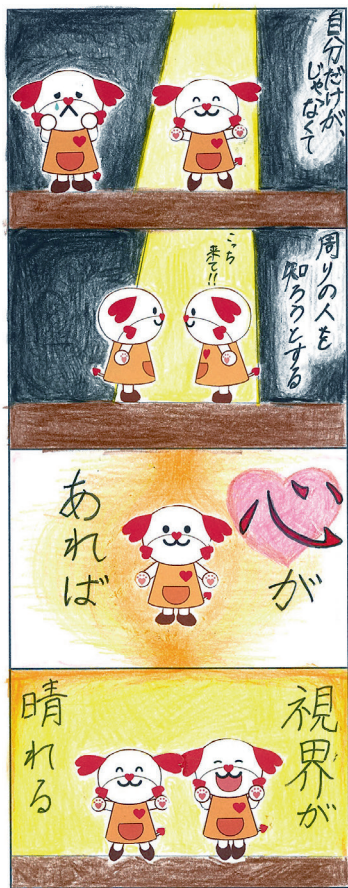
近年、AIやVR技術の進化がめざましく、学校教育の現場でもその技術を取り入れて話をするニューズや新聞でもよく目にするようになりました。また、子ども達から「VRゴーグルでゲームしたよ」「オンラインゲームしたことあるよ」と、話を聞くこともあります。

そうした時代の中であっても、親しみや愛情、相手の気持ちに気がつき、寄り添うことなど、心で感じる『人とのつながり』はAIに取って代われないのだと考えます。だからこそ、目の前の子ども達には、つなぐ手のぬくもりや目と目を合わせて心が通う嬉しさなど、直接ふれあいながら築いていくつながりの温かさを伝えていきたいと思えます。

先生や友達と過ごす子ども達の毎日が輝ける日々となるよう、目の前の子ども達とのつながりを大切にしていきたいと思えます。

令和6年度
ラブピース4コマまんが受賞作品

「快晴」



三田学園中学校1年(前年度)

あおいさん

令和6年度
人権標語受賞作品

あなたにある
あなたにしかない
いい所

上野台中学校1年(前年度)
井本 莉菜さん